

# 学校評価 第2回 児童アンケート考察

令和3年12月22日 安謝小学校

合計24項目 第1回との比較：UP→5 Down→4 維持→15

## (1) 肯定回答の多い項目（平均3.7以上）の変容

- ・問2「仲の良い友だちがいる」 ↑0.1

コロナ禍で休校期間もあり、友人間の絆を強めることが難しい中、各学級の担任の先生方が支持的風土のある学級づくりのため尽力し、学級活動や係活動、委員会活動などを通してまわりと協力・協働する機会を与えてくれたことで、肯定回答が増えた。

- ・問14「先生方は悪いことをしたとききちんと指導してくれる」 →維持(0)
- ・問16「先生方は命の大切さについておしえてくれる」 →維持(0)
- ・問24「係活動や当番活動をがんばっている」 →維持(0)

※第2回で、3.7以上に入った項目

- ・問21「学校で、コンピューターやタブレットを使うことがある」 ↑0.3

休校期間終了後に、低学年も含めどの学年もタブレットを使う機会が増えた。その背景には、情報担当者を中心とした休校期間中の職員研修の実施や、ICT支援員の協力、タブレット使用のための環境整備などがうまくいったことがある。今後も定期的にタブレットを活用した授業の実施を行い、活用方法などの研修などの研鑽に努めることで、より一層良さが伸びると思われる。

## (2) 気になる項目（平均3.1以下）の変容

- ・問9「自分にはよいところがあると思う」 →維持(0)

自己肯定感・自己有用感の高揚について、第2回も3.1（肯定回答75%）となり第1回目と同じ結果であった。以下の点などを引き続き実践継続する。

- ・「朝の会」「帰りの会」等に児童の頑張ったことを価値付けできるような機会を定期的に設ける。
- ・学年朝会などで表彰や賞賛の場を持つ。
- ・学級の背面に児童一人ひとりのワークシートを掲示し、更新していく。できるだけプラスのコメント（教師から or 児童同士）を入れて掲示してあげる。

- ・問10「いじめで困っているとき、先生や親に相談する」 →維持(0)

第1回、第2回とも3.1(肯定回答75%→72%)となっている。問15「先生方はあなたの話を聞いてくれたり、相談にのってくれますか」も3.6(94%)と維持している。今後の意識として高めるべき点は以下の2点である。

- ・笑顔なかよしアンケートは、教室が静かで秘密が守られる状態で実施(左右の児童が書いていることがわからないように)し、アンケートに書かれていることは集めたあとすぐ目を通し、必要であれば学年、学校、相談機関で連携して迅速に対応する。
- ・子どもたち一人ひとりの行動や言葉遣い、態度に気をつけて、サインを見逃さず、こちらから声かけをする。

- ・問12「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくありますか」→維持

この項目の向上のためには、授業において、

- ・自分で考える時間を必ず確保してあげる
- ・発表させる場面をつくる。発表が苦手な児童にも、答えやすいよう発問を工夫し、指名して発表させる。
- ・学級全員が、安心して意見を言ったり発表できるような支持的風土を醸成する。

- ・問18「あなたが住んでいる地域の人とお話することがありますか」 →維持(0)

学校としてできること

- ・地域行事の周知と発信 ・地域の方々への挨拶の奨励 ・地域人材の活用

- ・問19「安謝小学校に貼られている掲示物をよく見るがありますか」 ↓0.1

- ・教室以外の学校内掲示物について(平和旬間、グッドノートなど)は、掲示物があることを周知し、できれば全員掲示物の前に連れて行くなど見る機会を与える。
- ・教室の掲示物は、係活動の中で児童に掲示させたり、学級の掲示物を張り替えるタイミングを学年でそろえる。

### (3) 今後の改善点

肯定回答の多い項目に関して、第1回→第2回にかけて維持または上昇していて本校の強みであると捉えられる。また、全学年でタブレットを使用した授業を夏休み後に実施できたことで、問21の項目が上昇したことはよかった。

気になる項目として、まだ改善されていないことは反省点である。問19をはじめ、どの項目においても子どもたちをもっと実感できるよう、意図的・計画的に教育活動に取り組む必要がある。